

WRC第11戦ラリージャパン アトキンソン (SWRT-Motul)4位、新井選手6位、 ソルベルグ7位

(9/1-3)

2006年9月1-3日、北海道帯広地区にて、世界ラリー選手権第11戦「ラリージャパン」が開催された。

優勝はバトルを逃げ切ったシトロエンのS.ローブ、2位はフォードのM.グロンフォルム、3位が同じくフォードのM.ヒルボネンという結果になった。

入場者数は、主催者発表でのべ252千人。

MOTULとしては、スバルワールドラリーチーム勢では、クリス・アトキンソンが4位、新井敏弘が6位、ペター・ソルベルグが7位でラリー・ジャパンを終了した。

MOTULとしては、PCWRC及びNクラスを含め、合計16台が参戦した。

富士重工が編成する、全国のディーラーメカニックチームである「スバルラリーチームジャパン」は、D.ヘリッジがNクラス6位、勝田選手が21だった。

レースの結果は思わしくなかったものの、今回もドライバーの一番人気はペター・ソルベルグ。

サービス精神旺盛なペターはセレモニアルスタートでもドアを開けて身を乗り出しているファンサービス。サービスパークのあちこちでもファンのサイン攻めに応じており、最終SSを終えてサービスに戻ってきた時も、まずは支えてくれたメカニックに一人ひとりお礼の言葉を掛け、その後すぐに観客のサイン攻めに応じていた。その彼のうしろ姿からは、彼の人気を裏付ける態度がうかがえ、ラリーの結果とは別にペターの人気の秘訣を垣間見た気がした。

表彰式の後にはスバルのエンジニアと熱いミーティングを繰り広げていた事をお伝えするとともに、次戦キプロスでの活躍を期待したい。



早朝のサービスパーク



Copyright © STE



ソルベルグ選手



MOTUL製品の並ぶSWRTブース



スバルラリーチームジャパン